



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月14日

上場会社名 株式会社ショーケース 上場取引所 東
コード番号 3909 URL <https://www.showcase-tv.com/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）平野井 順一
問合せ先責任者 （役職名）コーポレート本部長 （氏名）濱邊 英明 （TEL）03-6866-8555
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年1月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		EBITDA		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第3四半期	2,582	△45.7	80	—	75	—	150	—	807	—
2024年12月期第3四半期	4,758	6.7	△199	—	△218	—	12	—	△690	—

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 904百万円（－％） 2024年12月期第3四半期 △718百万円（－％）

（注）EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	94.20	—
2024年12月期第3四半期	△99.19	—

（注）1. 2026年3月期は、決算期変更の経過期間であり、通期については、2025年1月1日から2026年3月31日の15ヶ月間となります。

2. 2026年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。また、2024年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期第3四半期	2,521	1,781	70.6
2024年12月期	3,486	1,294	22.8

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 1,781百万円 2024年12月期 795百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年1月1日～2026年3月31日）

「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に掲げた理由から、連結業績予想を開示しておりません。今後、合理的な予測が可能になった時点で速やかに開示いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 一社 (社名) ー、除外 1社 (社名) ReYuu Japan株式会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期3Q	10,185,600株	2024年12月期	10,185,600株
------------	-------------	-----------	-------------

② 期末自己株式数

2026年3月期3Q	1,612,900株	2024年12月期	1,612,900株
------------	------------	-----------	------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2026年3月期3Q	8,572,700株	2024年12月期3Q	6,959,320株
------------	------------	-------------	------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(追加情報の注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や、インバウンド需要の拡大や個人消費の持ち直しの動きがみられており、国内経済は緩やかに回復しております。一方で、継続的な物価上昇、金融資本市場の変動影響や海外景気の下振れなどもあり国内外における経済的な見通しは不透明な状況が続いております。

当社グループでは、「おもてなしテクノロジーで人を幸せに」をコアバリューに据え、「企業と顧客をつなぐDXクラウドサービス」をコンセプトに事業を推進しています。

当社グループが事業展開する主要マーケットにおいては、新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、リモートワーク等の働き方改革、デジタルトランスフォーメーション（以下、「DX」という）への取り組みが多く企業で進められております。また、インターネットやスマートフォンなどのデバイスを活用した本人確認を安全かつ効率的に進めるためのオンライン本人確認（eKYC等）やマイナンバーカードを利用した公的個人認証サービス（JPKI：Japanese Public Key Infrastructure）、多要素認証（MFA：Multi-Factor Authentication）、等のニーズを受け、非対面取引に関する市場が急拡大しております。2027年4月には、犯罪収益移転防止法の改正が予定されており、市場のさらなる拡大が期待されます。

今後も、これらの成長市場に対して、当社グループの培ったユーザビリティの高い技術を活用し、社会の”不”を解消する価値の高いサービスを積極的に提供してまいります。

なお、連結子会社は投資関連事業を行う株式会社Showcase Capitalの1社となります。

また、情報通信関連事業を行うReYuu Japan株式会社（東証スタンダード：9425 以下、「ReYuu社」という）については、2025年3月25日付の株式譲渡により連結の範囲から除外しておりますが、第1四半期連結会計期間までの損益計算書は連結しております。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,582,431千円（前年同四半期比45.7%減）、営業利益は80,810千円（前年同四半期は営業損失199,056千円）、経常利益は75,401千円（前年同四半期は経常損失218,180千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は807,511千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失690,329千円）となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

① DXクラウド事業

DXクラウド事業は主に、企業のWebサイト分析・解析支援を行う「NaviCastシリーズ」、オンライン本人確認サービスを行う「ProTechシリーズ」、DX支援サービスを行う「おもてなしSuite」で構成されております。

NaviCastシリーズについて、当社の基盤サービスであるEFOツール「FormAssist」は、入力フォーム最適化市場：ベンダー別売上金額シェアで10年連続（2014～2023年度予測）No. 1を獲得しました（※1）。また、2025年2月より、撮影した書類の文字データを読み取り自動で入力フォームへ反映させるサービス「NaviCast AI OCR」の提供を開始するなど、堅調に推移しております。

※1 出典：ITR「ITR Market View：メール／Web／SNSマーケティング市場2024」入力フォーム最適化市場規模推移および予測（2014年～2023年度予測・売上金額）

ProTechシリーズについて、オンライン本人確認/eKYCサービス「ProTech ID Checker（プロテック アイディー チェッカー）」の利用企業はメガバンクをはじめとする金融機関、中古品買取事業者等の古物商、通信キャリアなど多岐に亘っており、累計の導入社数は340社を突破いたしました。

また、2025年2月にはマイナンバーカードに関連する様々なICアプリケーションを一括管理・利用できる公的認証スーパーアプリ「ProTech マイナンバーIC認証」の提供を開始いたしました。デジタル庁のマイナンバーカード・インフォ（※2）でも紹介されております。その結果、前年同期比で増収増益となりました。

※2 出典：令和7年4月18日 デジタル庁 マイナンバーカード・インフォ（民間事業者向け）vol. 77

おもてなしSuiteについて、「kintone」連携機能強化のため、提供元であるサイボウズ株式会社（東証プライム：4776）との取り組みを進めてまいりました。また、現場の声や多様化するニーズに応えるべく、継続的な機能開発、改善を重ね、2025年5月には機能数が100個を突破いたしました。

以上の結果、DXクラウド事業全体における売上高は823,192千円（前年同四半期比0.4%増）、セグメント利益（営業利益）は272,208千円（前年同四半期比46.8%増）となりました。

② 広告・メディア事業
（オウンドメディア）

主力となるスマートフォン情報メディアをはじめとして、複数のライフスタイル情報等の比較メディアを中心に、様々なSEOメディアを運用しております。当第3四半期連結会計期間においては安定的に売上貢献をしております。

（広告関連サービス）

広告関連サービスについては、従来から提供してきた運用広告関連サービスに加え、顧客のニーズに合わせたSNS広告運用サービス等の提供により、安定的に売上貢献をしております。

以上の結果、広告・メディア事業全体における売上高は212,876千円（前年同四半期比3.6%減）、セグメント利益（営業利益）は44,162千円（前年同四半期比183.2%増）となりました。

③ 投資関連事業

投資関連事業を手掛ける株式会社Showcase Capitalは、当第3四半期連結会計期間において、ファンドの分配収益が拡大し前年同期比で大幅な増収増益となりました。

このほか、ReYuu社が行う第三者割当方式による新株予約権を引き受けるなど、新たな純投資を進めております。

以上の結果、投資関連事業全体における売上高は172,252千円（前年同四半期比901.7%増）、セグメント利益（営業利益）は98,023千円（前年同四半期はセグメント損失（営業損失）5,444千円）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

第1四半期連結会計期間において、株式を一部売却したことに伴い、ReYuu社を連結の範囲から除外しております。連結除外の主な影響として、のれんを除く資産合計が2,005,234千円、のれんが109,102千円、負債合計が1,145,929千円、非支配株主持分が494,873千円減少し、投資有価証券が179,500千円、利益剰余金が77,068千円増加しております。以下では、当該影響を含めて記載しております。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ964,487千円減少し、2,521,697千円となりました。この主たる要因は、関係会社短期貸付金が1,000,000千円、投資有価証券が292,153千円増加した一方で、現金及び預金が449,018千円、売掛金及び契約資産が575,641千円、商品が844,174千円、のれんが122,740千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,450,782千円減少し、740,512千円となりました。この主たる要因は、未払法人税等が50,682千円増加した一方で、短期借入金が500,000千円、長期借入金（1年内返済予定を含む。）が851,681千円、流動負債のその他が122,833千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ486,295千円増加し、1,781,184千円となりました。この主たる要因は、非支配株主持分が498,994千円減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及びReYuu社の連結除外による影響により利益剰余金が884,579千円、その他有価証券評価差額金が101,008千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は70.6%（前連結会計年度末は22.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期通期連結業績予想につきましては、当社は、直近で売上規模の大きい子会社を売却したことにより、売却後の事業構造や収益構造が大きく変化しております。本業のDXクラウド事業においてもソフトウェアの減損処理を行うなど（詳細は2025年11月14日付けの「特別損失（減損損失等）の計上に関するお知らせ」を参照ください）、現時点では、事業再編後の収益水準や費用構造等について不確定要素が多く、合理的な業績予想数値を算定することが困難な状況です。

そのため、現時点では業績予想の開示を見送らせていただきます。今後、合理的な予想が可能になった時点で速やかに開示いたします。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、複数の事業を運営している中で、情報通信関連事業において新型コロナウイルス感染症の拡大により調達難等の影響を受けたことで、2022年12月期の連結会計年度から前連結会計年度まで3年連続して営業損失を計上したほか、マイナスの営業キャッシュ・フローを計上いたしましたことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、このような状況を解消するため、業績及び営業キャッシュ・フローの改善を進めてまいりました。このような中、情報通信関連事業を行うReYuu社の株式の一部譲渡を行うなどの施策を実施し、当第3四半期連結累計期間においては、営業利益80,810千円（前年同四半期は営業損失199,056千円）と大幅に改善いたしました。

さらに、投資関連事業においては大口の分配金収入など、前年同四半期から増収増益となり、当第3四半期連結累計期間における営業利益は98,023千円（前年同四半期は営業損失5,444千円）と大幅に改善いたしました。

また、資金面では2024年12月13日付の第三者割当増資（677,418千円）に加え、2025年3月25日に連結子会社であるReYuu社の株式の一部譲渡（譲渡金額1,267,000千円）により、安定的な資金を確保することができました。この資金を活用し、借入金の繰上げ返済320,012千円や余資活用のため親会社であるAIフュージョンキャピタルグループ株式会社への貸付1,000,000千円を行った結果、当第3四半期連結会計期間末の現金及び預金は784,796千円（前連結会計年度末1,233,814千円、うち連結範囲から除外したReYuu社の現金及び預金は404,538千円）となりました。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,233,814	784,796
売掛金及び契約資産	708,651	133,010
営業投資有価証券	98,047	76,070
商品	844,174	—
仕掛品	1,156	—
関係会社短期貸付金	—	1,000,000
その他	110,611	37,534
貸倒引当金	△2,060	△1,296
流動資産合計	2,994,395	2,030,114
固定資産		
有形固定資産	113,574	47,526
無形固定資産		
のれん	122,740	—
その他	101,306	22,704
無形固定資産合計	224,046	22,704
投資その他の資産		
投資有価証券	42,091	334,245
その他	121,326	90,164
貸倒引当金	△9,248	△3,058
投資その他の資産合計	154,168	421,351
固定資産合計	491,789	491,582
資産合計	3,486,185	2,521,697
負債の部		
流動負債		
買掛金	33,959	21,669
短期借入金	900,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	236,012	36,000
未払法人税等	21,102	71,785
賞与引当金	3,600	—
その他	210,734	87,900
流動負債合計	1,405,408	617,355
固定負債		
長期借入金	722,335	70,666
退職給付に係る負債	27,815	—
その他	35,736	52,491
固定負債合計	785,887	123,157
負債合計	2,191,295	740,512
純資産の部		
株主資本		
資本金	389,047	389,047
資本剰余金	1,938,609	1,938,609
利益剰余金	△932,061	△47,482
自己株式	△599,998	△599,998
株主資本合計	795,597	1,680,176
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	101,008
その他の包括利益累計額合計	—	101,008
新株予約権	298	—
非支配株主持分	498,994	—
純資産合計	1,294,889	1,781,184
負債純資産合計	3,486,185	2,521,697

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
売上高	4,758,553	2,582,431
売上原価	3,693,189	1,536,359
売上総利益	1,065,364	1,046,071
販売費及び一般管理費	1,264,421	965,260
営業利益又は営業損失(△)	△199,056	80,810
営業外収益		
受取利息	107	5,578
受取配当金	58	—
為替差益	—	3,850
貸倒引当金戻入額	225	5,267
その他	2,376	377
営業外収益合計	2,767	15,074
営業外費用		
支払利息	13,830	12,069
支払手数料	1,404	4,282
その他	6,656	4,131
営業外費用合計	21,891	20,483
経常利益又は経常損失(△)	△218,180	75,401
特別利益		
関係会社株式売却益	—	900,196
その他	3,900	32,505
特別利益合計	3,900	932,702
特別損失		
減損損失	484,873	97,175
投資有価証券評価損	—	39,001
情報セキュリティ対策費	3,903	4,248
特別損失合計	488,776	140,425
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△703,056	867,679
法人税、住民税及び事業税	1,935	68,374
法人税等調整額	13,955	△4,086
法人税等合計	15,890	64,288
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△718,946	803,390
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△28,617	△4,120
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△690,329	807,511

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△718,946	803,390
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	101,008
その他の包括利益合計	—	101,008
四半期包括利益	△718,946	904,398
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△690,329	908,519
非支配株主に係る四半期包括利益	△28,617	△4,120

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報
(単位:千円)

	報告セグメント						
	DXクラウド 事業	広告・ メディア 事業	投資関連 事業	情報通信関連事業			計
				リユース 関連事業	その他の 事業	小計	
売上高							
顧客との契約から生じ る収益	818, 568	207, 932	664	3, 687, 745	33, 811	3, 721, 556	4, 748, 722
その他の収益	—	—	9, 830	—	—	—	9, 830
外部顧客への売上高	818, 568	207, 932	10, 495	3, 687, 745	33, 811	3, 721, 556	4, 758, 553
セグメント間の内部売 上高又は振替高	1, 507	12, 900	6, 700	—	—	9, 668	30, 777
計	820, 076	220, 832	17, 196	—	—	3, 731, 225	4, 789, 330
セグメント利益又は損失 (△)	185, 447	15, 594	△5, 444	—	—	△76, 800	118, 796

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
顧客との契約から生じる収益	—	4,748,722	—	4,748,722
その他の収益	—	9,830	—	9,830
外部顧客への売上高	—	4,758,553	—	4,758,553
セグメント間の内部売上高又は振替高	21,793	52,571	△52,571	—
計	21,793	4,811,124	△52,571	4,758,553
セグメント利益又は損失(△)	21,793	140,590	△339,647	△199,056

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、経営管理業務受託事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△339,647千円は、事業セグメントに配分していない全社費用△339,847千円、セグメント間取引消去200千円であります。全社費用は、主に事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

4. 「リユース関連事業」及び「その他の事業」は、収益の分解情報として記載しているため、「セグメント間の内部売上高又は振替高」、「計」及び「セグメント利益又は損失(△)」は記載しておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「DXクラウド事業」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において484,873千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「DXクラウド事業」において、のれんの減損損失を計上したため、のれんが減少しております。当該事象によるのれんの減少額は、126,992千円であります。

なお、上記（固定資産に係る重要な減損損失）に当該のれんの減損損失も含めて記載しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2025年1月1日 至 2025年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報
(単位：千円)

	報告セグメント						計
	DXクラウド 事業	広告・ メディア 事業	投資関連 事業	情報通信関連事業			
				リユース 関連事業	その他の 事業	小計	
売上高							
顧客との契約から生じる収益	815, 313	189, 776	277	1, 358, 553	21, 350	1, 379, 904	2, 385, 272
その他の収益	—	—	168, 756	—	—	—	168, 756
外部顧客への売上高	815, 313	189, 776	169, 034	1, 358, 553	21, 350	1, 379, 904	2, 554, 029
セグメント間の内部売上高又は振替高	7, 879	23, 100	3, 218	—	—	797	34, 995
計	823, 192	212, 876	172, 252	—	—	1, 380, 702	2, 589, 024
セグメント利益又は損失(△)	272, 208	44, 162	98, 023	—	—	△10, 495	403, 899

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
顧客との契約から生じる収益	28,402	2,413,674	—	2,413,674
その他の収益	—	168,756	—	168,756
外部顧客への売上高	28,402	2,582,431	—	2,582,431
セグメント間の内部売上高又は振替高	12,970	47,965	△47,965	—
計	41,372	2,630,397	△47,965	2,582,431
セグメント利益又は損失(△)	18,193	422,093	△341,282	80,810

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、経営管理業務受託事業等でありませ

す。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△341,282千円は、事業セグメントに配分していない全社費用△339,352千円、未実現利益の調整額△1,930千円であります。全社費用は、主に事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 「リユース関連事業」及び「その他の事業」は、収益の分解情報として記載しているため、「セグメント間の内部売上高又は振替高」、「計」及び「セグメント利益又は損失(△)」は記載しておりません。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(連結除外による資産の著しい減少)

第1四半期連結会計期間において、株式を一部売却したことに伴い、ReYuu社を連結の範囲から除外しております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、「情報通信関連事業」のセグメント資産が2,001,687千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「DXクラウド事業」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において97,175千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間において、株式を一部売却したことに伴い、ReYuu社を連結の範囲から除外しております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、「情報通信関連事業」において、のれんが122,740千円減少しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

第1四半期連結会計期間において、株式を一部売却したことに伴い、ReYuu社を連結の範囲から除外しております。これにより、当第3四半期連結累計期間において、利益剰余金が77,068千円増加しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
減価償却費	136,270千円	55,844千円
のれんの償却額	75,547千円	13,637千円

(追加情報の注記)

(決算期の変更)

当社は、2025年3月24日開催の第29期定時株主総会において「定款一部変更の件」が承認可決され、決算期（事業年度の末日）を12月31日から3月31日に変更いたしました。

決算期変更の経過期間となる第30期は、2025年1月1日から2026年3月31日までの15ヶ月間となります。